

# 日中友好親善のための最新の記事

日本は、古来、中国の伝来文化によって自国の文化を作ってきた。もちろん、わが国には、中国から新しい文化が伝来するはるかに前から、世界に誇るべき優れた技術を持っていたのであって、中国に迎合する必要はさらさらない。しかし、21世紀において、中国がアメリカと並んで世界の強国になるのは間違いないし、だからこそ、中国という国の真の姿を知った上で、言うべきはきっちり言いながら、中国の発展のために大いに力を貸すべきである。私は、真の日中友好親善を望んでいる。そのような観点から、中国のことをいろいろと書いてきている。その中から、これだけのことは是非日本人に知っておいて欲しいというものを取りまとめることとした。それが「日中友好親善のために」という私の論文である。

<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/tyuusin.pdf>

そして、その論文の「おわりに」で次のように述べた。すなわち、

『 習近平は、現在、「民族主義に支配されたネット世論」と「軍を中心とした対外強硬論」という二つの爆弾を抱えているようだ。中国が今後10年で米国と肩を並べる強国になることは間違いない。私たちは、中国が軍事大国として日本の脅威になることを望んでいない。日本と中国が相互に信頼し尊敬し合える国になって欲しい。そのために何ができるのかを、我々は考えていかなければならない。私は、中国の天命政治に大いなる期待を持っている。歴史と伝統文化に根ざし、発展させた新たな中華文明の出現のために私たち日本人に何ができるかを考えねばならない。日本と中国が一緒になって、世界平和を実現する「新たな世界文明」を創っていききたいものだ。

交流とは、相手の立場になって考えるところにその哲学的な意味合いがある。したがって、文化交流は、相手の人の日々の生活を支えている相手の人の生活している国又は地域の文化を理解し尊重するということにその哲学的な意味合いがある。

人々との交流の中で人々の気持ちにも気を配りながら、権威にへつらうことなく、世の中すべてのものを自分を取り巻く環境として受け止め、あくまでも自分自身の考えと意志で行動する、それが尊厳を生きるということだ。これは自立した自己を生きると言い替えても良い。

目まぐるし移り変わる社会において、自立した自己を生きていると、ふらふらすることなく、安定した人生を送ることができる。不安のない人生ということだ。

自立した自己を確立する、そのためには、独善に陥ってはならず、できるだけ文化の違う人たちとも付き合っ、より客観的な感覚を身につける必要がある。特に、現在のような

インターナショナルな時代においては、異なった文化を持つ他国の人たちと交流するのがいい。中国好きの私としては、中国人との交流を深めたいと願っている。また、靖国問題は、日本の純然たる国民問題としてどうしても解決しなければならないと考えている。草の根レベルの日中友好親善のための交流と靖国問題の国民世論への働きかけ、それらのために微力ながら私としてできる限りの努力をしたいと思っている。

日本と中国とが世界をリードする立派な国になるため、日中友好親善がもっとももっと深まることを心から願いながらこれからもいろいろと書いていきたい。』・・・と。

以上のとおり、私は、中国との友好親善を目指して、日本における中国伝来文化の現在を紹介していきたいと考えて、活動を始めた。まず最初のものとして秩父郡小鹿野町両神にある「神怡館（神怡館）」を紹介した。

その次のターゲットとして、私は、道教の「三尸の思想」を起源とする庚申信仰を取り上げたいと考えた。日本でもっとも古い庚申堂は京都市の八坂にある「庚申堂」である。そこで、日本最古の「八坂庚申堂」を紹介したと考えこの6月の14日にそこに行った。さらにその足で京都市の広隆寺の近くにある「山ノ内」の庚申猿田彦神社にも行った。そして、それを契機にあらためて「庚申信仰」について勉強したので、二回目はそれもあわせて紹介した。

今回（第3回）は、「嵐山の周恩来記念碑を訪ねて」という報告である。

私は、去る6月の14日（2015年）に、「八坂庚申堂」を訪れたその足で、京都の嵐山に周恩来の記念碑があるというので、訪ねた。

この「周恩来副総理詩碑」は、「日中平和友好条約」を永遠に記念するために建立されたものである。したがって、日本人は嵐山の周恩来記念碑に一度は訪ねるべきだ！ 私はそう思う。そこで、私は、日本の大恩人・周恩来のことをもっと深く知る必要があると考え、今回の論文を書いた。

周恩来は「天命政治」を一生をかけて貫き通した誠に貴重な人である。したがって、この論文では、中国の歴史と伝統にもとづく「天命政治」についても私の思うところを書いた。

さらに、この論文では、日本の大恩人・周恩来の見識「棚上げ案」に従って行くのが良策だと考えているので、その点についても触れることとした。

嵐山の周恩来記念碑を訪ねて：<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/syuuonwo.pdf>

なお、前回までのものは以下のとおりである。

第1回 神怡館について

第2回 道教起源の庚申信仰・・・思索の旅

第3回 日中友好親善・・・世界のために